

第1章 ひょうごの農林水産施策の取組

第1節 総括

1 総括的指標による評価・検証

「ひょうご農林水産ビジョン 2030」全体の活動成果である総括的な指標について、起点である令和元年を上回った項目は、全19項目のうち11項目(58%)となりました。令和元年を下回った項目の主な理由は、高温の影響や天候不順により収穫量が減少したことによる農産物生産量の減少や、廃業・減頭が規模拡大等の増頭ペースを上回ったことによる但馬牛繁殖雌牛飼養頭数の減少等によるものです。

Table with 6 columns: 項目, 起点 (R元①), 実績 (R5②), ②-①, R7 中間, R12③. Rows include 農産物生産量, 農業産出額, 法人経営体数, etc.

※ R5の実績は農林水産統計等が未公表のためR4実績

2 成果指標の点検・評価

成果指標全56項目(内、6項目はR4数値 ※1)の結果について、年度目標を達成「◎:100%以上」又は概ね達成「○:90%以上」している項目は、44項目/56項目(79%)で、ビジョンの目標達成に向けておおむね順調に進んでいると考えられます。一方で、高温傾向や天候不順の影響による丹波黒大豆の生育不良、国内向けに転換した産地があったことによる県産米の輸出量の減少などにより成果指標12項目の達成率が90%未満となっています。

達成率が低い各項目について、原因分析のうえ目標達成に向けた取組のさらなる推進が必要となっています。

Table with 7 columns: 基本方向/達成率, ◎, ○, △, ▲, 項目数, 達成割合※2. Rows include 基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開, etc.

凡例: 達成率100%以上◎ 90~100%○ 80~90%△ 80%未満▲ ※1 6項目の内、「実質化された人・農地プラン策定集落数」は法改正に伴い、人・農地プランが地域計画として法定化されたため、数値公表はR4年度まで ※2 達成割合: 90%以上の割合

第2節 施策の取組状況—施策の目標と評価—

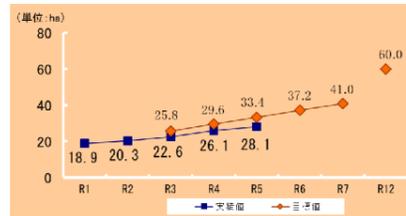
基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開

推進項目1 スマート化による新しい農林水産業の実現

(施設園芸における高度な環境制御技術の導入面積)【目標達成状況: △】

小規模生産者に対しても機器導入を進めるとともに、技術習得のための研修の実施など機器導入後のフォローアップ体制の充実を進めた結果、前年より2ha増加しましたが、生産資材の高騰等による投資意欲の減退等から、目標を下回りました。

施設園芸における高度な環境制御技術の導入面積

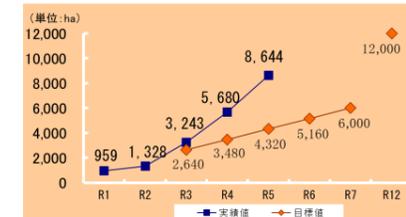


今後は、環境制御機器の導入や環境制御に取り組む前段階となる環境モニタリング機器の導入等、生産者の経営状況に応じた支援等により高度な環境制御技術の導入を推進します。

(土地利用型作物等における主なスマート農業技術利用面積)【目標達成状況: ◎】

高性能トラクターや高性能田植機の導入が進んだこと、農業サービス事業者によるドローンでの農薬散布等が増えたことにより、目標を上回りました。

土地利用型作物等における主なスマート農業技術利用面積



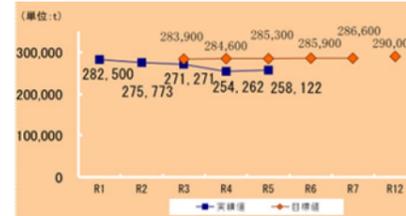
今後も、地域毎の多様な土地利用型農業に対応した営農技術体系の確立や産地で技術普及の核となる人材の育成により、スマート農業技術の導入と普及を推進します。

推進項目2 多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

(野菜生産量)【目標達成状況: ○】

たまねぎが大玉傾向となり前年度より生産量が増加したものの、レタス等の品目では担い手の高齢化等により作付面積の減少が進み、目標をやや下回りました。

野菜生産量

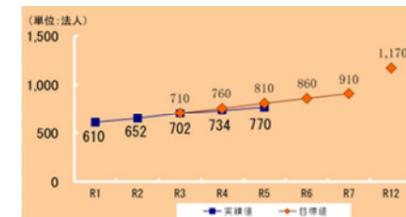


今後は、機械化による農作業の省力化、集落営農組織や企業参入などの多様な担い手による野菜生産の取組を支援し、県産野菜の生産拡大に取り組んでいきます。

(法人経営体数)【目標達成状況: ○】

集落営農や個別経営体の法人化に加え、事業の多角化や原材料の確保等を目的とする農外企業の参入が進んだこと等により増加したものの目標をやや下回りました。

法人経営体数

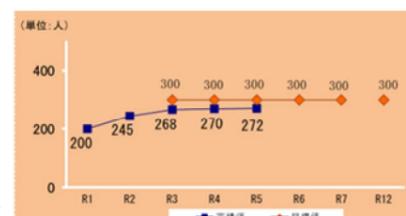


今後は、集落営農や個別経営体に対するセミナー・相談会の開催や専門家の派遣による個別指導等を通じ、経営体の法人化に向けた取組を支援します。

(新規就農者数)【目標達成状況: ○】

コロナ禍を契機とした移住・就農への関心が高まる一方、他産業との人材の引き合い等により目標をやや下回りました。

新規就農者数

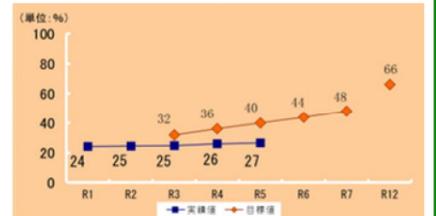


今後は、就農支援センターによる就農希望者向けセミナー・相談会の開催、短期・中期の農業体験機会の提供等を通じ、地域農業を担う新たな人材の確保に向けた取組を支援します。

(担い手への農地集積率)【目標達成状況: ▲】

農地所有者と担い手の条件面でのミスマッチや、担い手の世代交代が進んでいないこと等により目標を下回りました。

担い手への農地集積率

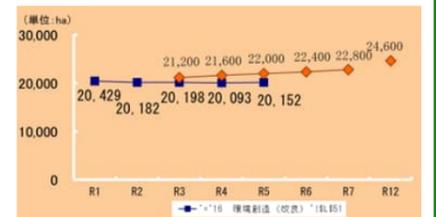


今後は、地域の話し合いにより担い手ごとに利用する農地を目標地図として明確化する「地域計画」の取組のほか、土地利用型農業の担い手確保に向けた経営継承の推進等の取組を支援します。

(環境創造型農業取組面積)【目標達成状況: ○】

新規に取り組む生産者がある一方で、高齢化等の理由により取組をやめる生産者もあり目標をやや下回りました。

環境創造型農業取組面積

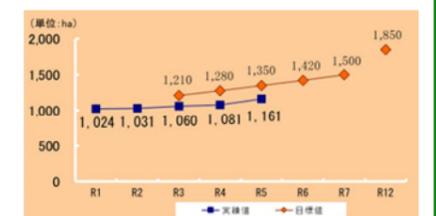


今後は、国の環境保全型農業直接支払交付金等も活用し、環境にやさしい栽培技術と省力化に資する技術を取り入れた栽培体系への転換等の支援を行います。

(有機農業取組面積)【目標達成状況: △】

但馬、丹波など着実に伸びている地域がある一方、手間のかかる農法であることから急な規模拡大が困難なため全体としては目標を下回りました。

有機農業取組面積

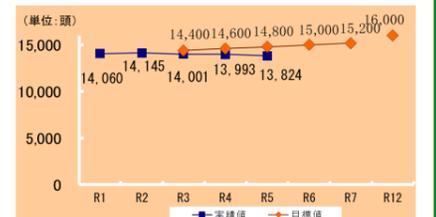


今後は、国のみどりの食料システム戦略に関する交付金等を活用し、市町等を中心とした産地づくりを支援するとともに、新規参入者の育成等を進めることにより、有機農業の取組拡大を推進します。

推進項目3 需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化

(但馬牛繁殖雌牛頭数)【目標達成状況: ○】 但馬牛繁殖雌牛頭数

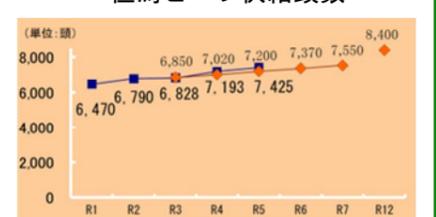
農家の高齢化等による廃業・減頭や飼料価格の高騰による増頭意欲の低下によって、目標をやや下回りました。



今後は、繁殖雌牛の導入及び牛舎整備・改修への支援や、新規就農者の初期投資軽減を図る等により、但馬牛繁殖雌牛の増頭を推進します。

(但馬ビーフ供給頭数)【目標達成状況: ◎】 但馬ビーフ供給頭数

これまでの繁殖雌牛の増頭等により肥育素牛の出荷頭数が増加したため、目標を上回りました。



今後も、但馬牛繁殖雌牛の増頭や但馬牛受精卵移植による肥育素牛生産拡大の支援等により、但馬ビーフの供給頭数の増加を推進します。

第1章 ひょうごの農林水産施策の取組

推進項目4 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進

（県内製材工場の製品出荷量）【目標達成状況：▲】

建築コストの上昇により住宅着工戸数が減少したため、建築向け製品の需要が低迷し、目標を下回りました。
今後は、非住宅を含めた建築需要の拡大とともに、乾燥機等の木材加工施設の導入を進め、県産木材製品の供給体制の強化を図ります。



（県内素材生産量）【目標達成状況：◎】

建築用材と製紙用材は例年並みにとどまった一方で、木質バイオマス発電向け燃料用材の需要が大幅に増加し、目標を上回りました。
今後も、計画的な事業地の確保により、素材生産量の増加に向けた取組を推進します。



（林業の新規就業者数）【目標達成状況：◎】

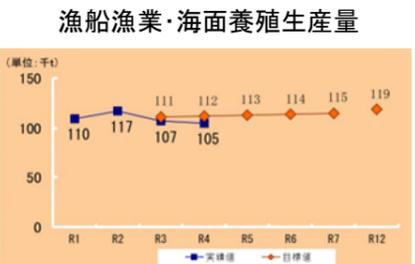
緑の雇用制度の積極的な活用や民間林業事業体への就業者の増加により、目標を上回りました。
今後も、県立森林大学校での人材育成や都市部で開催される就業ガイダンスへの参加等により、新規就業者の確保・育成に向けた取組を推進します。



推進項目5 豊かな海と持続的な水産業の実現

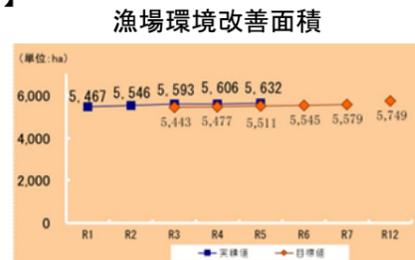
（漁船漁業・海面養殖生産量）【目標達成状況：○】

【R4年度】日本海での沖合底びき網漁業の漁獲量減に加え、瀬戸内海でのシラスの漁獲量減などから、目標をやや下回りました。
今後は、栄養塩類の供給や漁場の整備、豊かな海の再生のための栽培漁業に取り組むとともに、資源状況に応じた適切な資源管理等、漁船漁業・海面養殖生産量の増大に向けた取組を推進します。



（漁場環境改善面積）【目標達成状況：◎】

漁場整備事業の実施が計画的に進んでおり、目標を上回りました。
今後も、豊かな海の再生に向けて、水産資源の増殖や再生産の場となる漁場整備事業の推進により漁場環境の改善に取り組めます。



推進項目6 農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上

（兵庫県産米の輸出量）【目標達成状況：▲】

国内向けに転換した産地があったことから、前年度から大幅に減少し、目標を下回りました。
今後は、他品目と合わせた海外におけるプロモーションの実施や、高価格帯で取引可能な国内商社とのマッチング等の支援により県産米の輸出拡大に取り組みます。



（神戸ビーフ輸出量）【目標達成状況：◎】

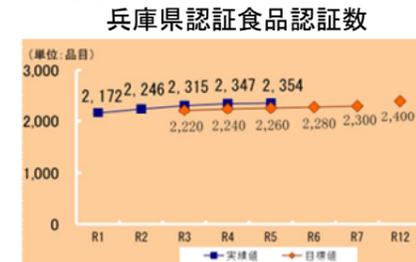
海外プロモーションや海外でECサイトによる販売等が好調であったため、目標を上回りました。
今後も、海外へ神戸ビーフの美味しさ等の魅力を発信して神戸ビーフの輸出拡大に取り組みます。



推進項目7 食の安全を支える生産体制の確保

（兵庫県認証食品認証数）【目標達成状況：◎】

前年度から7品目増加し、目標を上回りました。
今後も、ひょうご認証食品制度の理解促進を進め、認証取得を働きかけるとともに、認証食品ガイドブックの発行・配付、ホームページやSNS等を活用したPRなど、兵庫県認証食品の認知度向上に取り組めます。



基本方向2 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出

推進項目8 特色を活かした活力ある地域づくりの推進

（野生鳥獣による農林業被害額）【目標達成状況：◎】

各種補助制度を活用した防護柵の設置が進んでいること、強い捕獲圧が維持されていること等から、目標を上回りました。
今後も、科学的データに基づく被害防除、個体数管理、生息地管理による総合的な野生動物の管理を更に強化します。



推進項目9 農山漁村の防災・減災対策の推進

（ため池整備により安全性が向上した箇所数）【目標達成状況：◎】

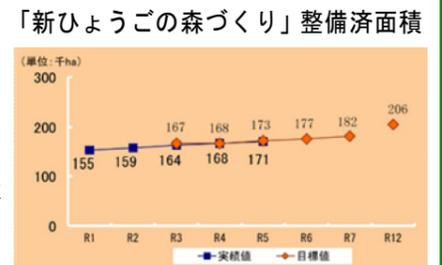
改修整備と廃止工事を合わせて59箇所新規着手し、目標を上回りました。
今後も、「兵庫県ため池防災工事等推進計画」に基づき、集中的かつ計画的にため池整備に取り組めます。



推進項目10 豊かな森づくりの推進

（「新ひょうごの森づくり」整備済面積）【目標達成状況：○】

労務単価の上昇等の影響で人工林の間伐面積が減少し、目標をやや下回りました。
今後は、森林環境譲与税を活用した条件不利地の間伐を促進するとともに、地域住民やボランティア団体による森林整備活動への支援等により健全な里山林の整備を促進します。

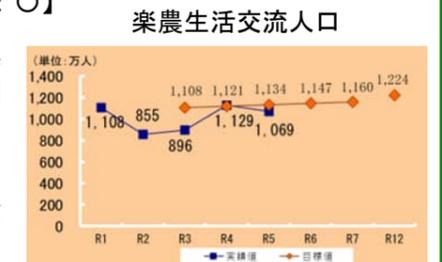


基本方向3 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実

推進項目11 食と「農」に親しむ楽農生活の推進

（楽農生活交流人口）【目標達成状況：○】

事業の活用等による新規施設の開設が進んだ一方で、大型交流施設の一時休館等の影響を受け、目標をやや下回りました。
今後は、オープンファームや市民農園など農林漁業体験施設を開設する際の支援を図り、楽農生活交流人口の拡大に向けた取組を推進します。



推進項目13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進

（県産農林水産物を購入している人の割合）【目標達成状況：△】

地域の農業産出額が高い淡路地域では数値が高いが、阪神南地域、阪神北地域など都市部を中心に数値が低く目標を下回りました。
今後は、学校給食での利用促進、小中学校での魚食料理教室の実施、民間事業者と連携したフェアの開催等を通じて県産農林水産物の知名度向上を図ることにより、購入者の拡大を推進します。



第2章 トピックス 「農」をめぐる最近の情勢

最近の「農」をめぐる主なトピックスを掲載

- 【SDGs】① ひょうご農林水産ビジョン2030×SDGsの推進
【農業】② ひょうごの水稲オリジナル品種の育成推進
③ ほ場整備農地に関西最大規模のイチゴ農園が参入
【畜産業】④ 耕畜連携による自給飼料の増産
【水産業】⑤ マダコ種苗放流の実施
【林業】⑥ 「主伐・再造林低コスト普及モデル」による主伐・再造林の推進及び建築物への木材利用促進の取組強化
【ブランド化】⑦ 生産から消費までを結んだ魅力ある特産品づくり
⑧ 日本農業遺産認定に向けた動き（山田錦・岩津ねぎ）
【連携】⑨ 持続可能な共生社会をうみだす「農福連携」の更なる推進
【中山間】⑩ 県内初の「農村RMO（農村型地域運営組織）」が発足！
⑪ 西光寺野疏水路が世界かんがい施設遺産に認定及び棚田カードの作成・配布を開始
⑫ 兵庫県立総合射撃場（ハンターズフィールド三木）がオープン及び特定外来生物ナガエツルノゲイトウ対策の推進について
【研究】⑬ 県立農林水産技術総合センターによる開発技術
⑭ 表彰